

# 官民協働危機管理クラウドシステム

災害リスク研究ユニット

## ☑ インターネットを経由して、周辺自治体や県と、自動的に情報連携

官民協働危機管理クラウドシステムでは、クリアリングハウスと呼ばれるデータ共有の仕組みとAPI (Application Programming Interface) を活用して、隣接自治体の状況や、発災直後に各機関から提供される地図情報 (航空写真や通れた道マップ等) を取り込む機能を有しています。

これにより、各自治体は、自らの対応に専念しながら、上位機関への情報提供や隣接自治体の状況参照を円滑に行うことが可能となります。



## ☑ システムの主な特徴

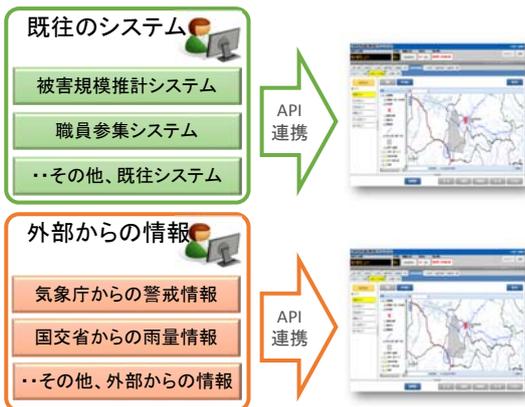
官民協働危機管理クラウドシステムは、災害時に防災関係機関が円滑に情報連携するための、情報共有プラットフォームです。様々な災害情報を、“地図と表”を用いながら、インターネットで共有し、相互に情報を提供／閲覧する仕組みです。



※上図の画面イメージは、開発中の画面であり、今後変更される場合があります。

## ☑ 標準APIによる連携

国際標準の地図APIを採用しています。これにより、ご使用中の様々なシステムと情報連携が可能です。



## ☑ 公共情報コモンズ等で迅速に周知

また、官民協働危機管理クラウドシステムで一元的に管理された情報・・・避難勧告／指示、避難所開設情報などを、公共情報コモンズやSNSを活用して、ワンストップで迅速に住民周知することが可能です。



危機管理クラウド

検索